

テレビ局の立ち位置

STV 番組審議委員会委員長

濱田 康行

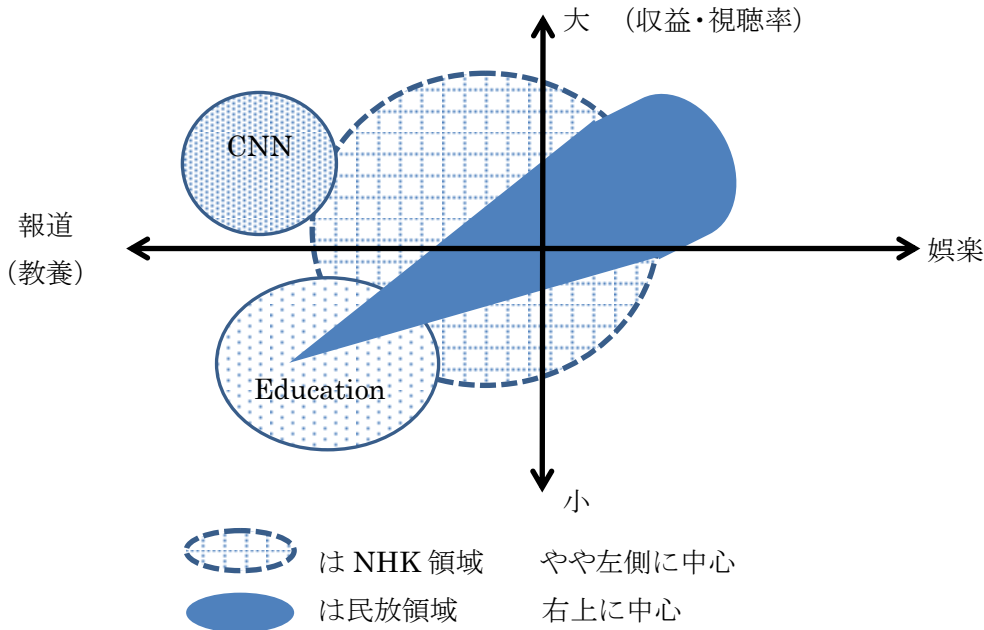
2015 9月29日

テレビは最強のメディアだが、二面性を持つ。ひとつは報道メディア、もうひとつは娯楽の玉手箱。両要素が分かち難く結びついている番組（例えばスポーツ生中継）もあれば、意図的に結びつけているものもある（バラエティ系）。

二面性は、視聴する側の二つのニーズに基づいている。それは“知りたい”と“癒し”だろう。前者は多少なりとも教育を受けた人間の、後者は普通に働いている人がオフタイムに持つ自然な欲求だ。

しかし、この二面性のうち、テレビ局の収益により関係するのは後者である。報道は生じた事実には制約されるが、娯楽性の範囲は広く、それを生み出す番組製作者の創造力しだいでもどこまでも拡散するから、ここにはそれぞれのテレビ局の個性が反映する。つまり違いが出る。その違いにスポンサーはお金を払う。

以上の相関を図示すれば次のようになる。



論点 : 自らの局の立ち位置をどこに定めるか？  
定めない戦略もある。

補論 : なぜヤラセ番組は生まれるか。  
製作者が視聴者のニーズを先取りして、無理に娯楽性を附加しようとする。